

介護技術の教授方法に関わる基礎的研究

三富道子・三田英二・井上桜・渡辺薫

A Study on Teaching for Care skills

MITOMI Michiko, MITA Eiji, INOUE Sakura, WATANABE Kaoru

はじめに

介護福祉士教育の中で「介護技術」の教育にかけている比重はきわめて高い。2年課程においても必修科目 18 科目、総時間数 1,650 時間のうち「介護技術」150 時間、「形態別介護技術」150 時間と 2 科目で全体の 18%強を占めている（社会福祉士介護福祉士学校職業能力開発養成施設指定規則）。さらに厚生労働省の学習指導指針によると、「形態別介護技術」で行うべき内容は、手話・点字以外各障害区分に対する演習とだけうたわれ、事例・ロールプレイ・福祉機器の取り扱いが具体的演習内容として提示されている。とすると、技術としての演習は「介護技術」が対象といえるだろう。

こうした厚生労働省の学習指針に準拠し、介護福祉士養成施設で活用されている各出版社の「介護技術」のテキストは、おのずと実技習得型で構成され、また執筆されている。執筆者は、看護職経験者もしくは現在その職に就いているものが多く、これはいわば看護教育における「看護技術」教育をその拠り所としているといえる。

本研究は、介護教員の教育背景や年齢を明らかにするとともに、こうした背景が教授方法になんらかの影響を与えているのではないかと考え、その基礎的資料を作成することを目的にする。

I. 方法

1. 調査対象者

関東、東海、近畿地方の介護福祉士養成校で「介護技術」を担当する教員 256 名
回答数 97 回収率 37.8% 有効回答数 95

2. 調査方法

平成 16 年 11 月～12 月にかけて郵送による配布・回収を行なった。

3. 調査用具

「介護技術」教育方法のアンケート調査（KKMA と略記）
アンケートの質問項目は、『社会福祉士・介護福祉士・社会福祉主事関係法令通知集』（第一法規出版、2002 年）で示されている介護福祉士養成施設等における授業科目の目標及び内容から、「介護技術」の内容に関する大項目を取り上げて作成した。

II. 結果

項目 6 の授業回数については、各下位項目ごと①を 1 回、②を 2 回、③を 3 回、④を 4

回，⑤を⑤回，⑥を6回~10回未満，⑦を10回以上，として回答を求めた。

項目8の「技術の習得」・「知識の習得」ともに，各下位項目ごと「重視していない」・「あまり重視していない」・「どちらでもない」・「重視している」・「とても重視している」の5件法により回答を求めた。

KKMAでの質問項目番号1～5，7の回答を基にし，項目6，8の下位項目の回答の有意差検定を行った（t検定または多重比較）。

項目6の下位項目は，①と回答した場合1点と採点し，順次②は2点，③は3点，④は4点，⑤は5点，⑥は6点，⑦は7点と採点した。

項目8の下位項目は，「重視していない」を1点と採点し，順次2，3，4点，「とても重視している」を5点として採点した。

1. 資格による差異

項目1の回答者の資格別に，項目6，8の各下位項目の平均点を算出し，t検定を行った。有意差と有意傾向が見られた下位項目をtable 1に示す。

table 1 資格による差異

下位項目	資格	人数	平均値	SD	t 値	df	p
食事（授業回数）	医療職	47	4.04	1.67	1.92	88	#
	福祉職	43	3.42	1.38			
衣服の着脱（授業回数）	医療職	47	3.72	1.65	1.81	88	#
	福祉職	43	3.14	1.37			
コミュニケーションの技法 （介護技術授業）	医療職	46	4.57	.50	1.97	87	#
	福祉職	43	4.33	.64			
介護過程の展開（介護技術授業）	医療職	44	4.70	.51	2.00	76.64	※
	福祉職	43	4.44	.70			
状態の変化の確認と不調のきざ しの発見の技法（知識の習得）	医療職	46	4.41	.54	2.10	86	※
	福祉職	42	4.17	.58			

#…p<.10 ※…p<.05

table 1において，有意差が見られた下位項目はすべて医療職が高い得点を示した。

2. 介護福祉士養成の教育年数による差異

項目2については，①～④の調査対象者の教育年数ごとに，項目6，8の各下位項目の平均点を算出し，最小有意差法（LSD）により多重比較を行った。有意差が見られた下位項目をtable 2に示す。

table 2 介護福祉士養成の教育年数による差異

・排泄（介護技術授業で重視しているもの）

教育年数	人数	平均値	SD	2年未満	2～5年	6～10年	10年以上
2年未満	17	4.59	.62				※
2～5年	35	4.51	.51				※
6～10年	33	4.39	.70				#
10年以上	8	3.88	1.25	※	※	#	

・入浴（介護技術授業で重視しているもの）

教育年数	人数	平均値	SD	2年未満	2～5年	6～10年	10年以上
2年未満	17	4.59	.62			#	※
2～5年	34	4.32	.47				#
6～10年	33	4.24	.66	#			
10年以上	8	3.63	1.16	※	#		

・安楽と安寧の技法（介護技術授業で重視しているもの）

教育年数	人数	平均値	SD	2年未満	2～5年	6～10年	10年以上
2年未満	17	4.35	.79			#	※
2～5年	35	4.20	.58				※
6～10年	33	3.97	.64	#			
10年以上	8	3.65	1.06	※	※		

・身体の清潔（介護技術授業で重視しているもの）

教育年数	人数	平均値	SD	2年未満	2～5年	6～10年	10年以上
2年未満	17	4.47	.62				※※
2～5年	35	4.29	.58				※
6～10年	33	4.24	.56				※
10年以上	8	3.75	1.16	※※	※	※	

・緊急事故時の介助（介護技術授業で重視しているもの）

教育年数	人数	平均値	SD	2年未満	2～5年	6～10年	10年以上
2年未満	17	3.94	.56				
2～5年	34	4.21	.64				※
6～10年	33	4.06	.79				#

10年以上	8	3.50	1.07		※	#	
-------	---	------	------	--	---	---	--

・介護過程の展開（介護技術授業で重視しているもの）

教育年数	人数	平均値	SD	2年未満	2～5年	6～10年	10年以上
2年未満	17	4.71	.47				※※
2～5年	34	4.53	.61				※
6～10年	31	4.65	.66				※※
10年以上	9	3.89	1.27	※※	※	※※	

・食事（知識の習得授業で重視しているもの）

教育年数	人数	平均値	SD	2年未満	2～5年	6～10年	10年以上
2年未満	17	4.59	.51				※※※
2～5年	35	4.49	.51				※※※
6～10年	32	4.50	.57				※※※
10年以上	8	3.75	1.16	※※※	※※※	※※※	

・排泄（知識の習得授業で重視しているもの）

教育年数	人数	平均値	SD	2年未満	2～5年	6～10年	10年以上
2年未満	17	4.59	.62				※※※
2～5年	35	4.63	.49				※※※
6～10年	33	4.55	.56				※※※
10年以上	8	3.75	1.16	※※※	※※※	※※※	

・入浴（知識の習得授業で重視しているもの）

教育年数	人数	平均値	SD	2年未満	2～5年	6～10年	10年以上
2年未満	17	4.53	.62				※※
2～5年	35	4.46	.59				※※
6～10年	33	4.39	.66				※
10年以上	8	3.75	1.16	※※	※※	※	

・安楽と安寧の技法（知識の習得授業で重視しているもの）

教育年数	人数	平均値	SD	2年未満	2～5年	6～10年	10年以上
2年未満	17	4.18	.81				#
2～5年	35	4.34	.54				※

6～10年	33	4.12	.65				#
10年以上	8	3.63	1.06	#	※	#	

・身体の清潔（知識の習得授業で重視しているもの）

教育年数	人数	平均値	SD	2年未満	2～5年	6～10年	10年以上
2年未満	17	4.47	.72				※
2～5年	35	4.34	.54				※
6～10年	33	4.36	.60				※
10年以上	8	3.75	1.16	※	※	※	

・緊急事故時の介助（知識の習得授業で重視しているもの）

教育年数	人数	平均値	SD	2年未満	2～5年	6～10年	10年以上
2年未満	17	4.06	.90				#
2～5年	34	4.26	.62				※※
6～10年	33	4.30	.59				※※
10年以上	8	3.50	1.07	#	※※	※※	

#…p<.10 ※…p<.05 ※※…p<.01 ※※※…P<.005

授業回数では、年齢による差異は見られなかったが、技術の習得、知識の習得では、差異が見られた。差異が見られたものは、すべて10年以上の教育経験を持つものが低い数値（より重視していない）を示している。

3. 看護教員の経験の有無による差異

項目3の看護教員の経験の有無による差異は、「1. 資格による差異」と同様、項目6, 8の各下位項目の平均点を算出し、t検定を行った。有意差がみられた項目はなかった。有意傾向が見られた下位項目をtable 3に示す。

table 3 看護教員の経験の有無による差異

下位項目	経験	人数	平均値	SD	t 値	df	p
医療，看護対応時の介助 (授業回数)	有	31	3.10	1.68	1.76	91	#
	無	62	2.52	1.40			
状態の変化の確認と不調のきざし の発見（知識の習得）	有	30	4.43	.57	1.86	89	#
	無	61	4.16	.69			
安全で危険のない住いの居住環境 の整え（知識の習得）	有	31	4.16	.64	1.75	92	#
	無	63	3.89	.74			

#…p<.10

4. 教員の年齢による差異

「授業回数」・「介護技術授業で重視しているもの」・「知識の習得授業で重視しているもの」で、項目4の教員の年齢により差異がみられたものは、「安楽と安寧の技法」（知識の習得授業で重視しているもの）だけであった。多重比較（LSD）の結果を table 4 に示す。

table 4 教員の年齢による差異

・安楽と安寧の技法（知識の習得授業で重視しているもの）

年 齢	人数	平均値	SD	20代	30代	40代	50代	60代
20代	5	4.60	.55				#	
30代	22	4.09	.68			#		
40代	20	4.50	.61		#		※	
50代	30	3.97	.56	#		※		
60代	16	4.13	1.02					

#…p<.10 ※…p<.05

40代教員が最も重視している結果が得られた。

5. 1回の授業時間による差異

1回の授業時間が60分程度と90分程度という時間による差異がみられるか否か検討するためt検定を行った。有意差・有意傾向が見られた項目を table 5 に示す。

table 5 1回の授業時間による差異

下位項目	授業時間	人数	平均値	SD	t 値	df	p
身体の清潔（授業回数）	60分	5	5.00	2.00	1.91	92	#
	90分	89	3.55	1.64			
安全で危険のない住いの居住環境の整え（技術の習得）	60分	5	3.20	.84	-2.36	92	※
	90分	89	3.96	.69			
安全で危険のない住いの居住環境の整え（知識の習得）	60分	5	3.40	.89	-1.88	92	#
	90分	89	4.01	.70			

#…p<.10 ※…p<.05

「身体の清潔」の授業回数で、1回の授業時間が60分程度の授業を行っているところが、90分程度で授業時間を設定しているところより、授業回数が多い傾向があるという結果が得られた。授業回数ではこれ以外では、差異は見られなかった。

授業回数とは逆に、「安全で危険のない住いの居住環境の整え」を90分程度の授業時間設定を行っているところが、技術の習得・知識の習得、ともにより重視している。これ以

外で授業時間の設定の違いにより重視度に差異が見られる項目は見られなかった。

Ⅲ. 考察

KKMK 調査による介護教員の教育背景や経験の有無が、どのように教授方法と関係があるか考察を行なっていく。

1. 資格による差異

医療職資格を有する教員の特徴は、食事・衣服の着脱・コミュニケーションの技法・介護過程・状態の変化と不調のきざしの発見の技法を重視し、これらを強調して教授している。福祉職資格教員は、主だった特徴はなく全体に比重を均等に割り振っている。

2. 介護福祉士教育年数の差異

介護技術で重視している項目は、教育年数が浅いものほど三大介護と呼ばれるもののうちの二つ、排泄・入浴をあげている。さらに、身体の清潔・緊急事故時の介助など現場の中で優先順位の高い項目をあげていることも特徴がある。しかし、重視はしているものの、授業回数を多く配分しているわけではない。

他方、教育歴 10 年以上の教員はとみると全体に満遍なく押さえた教授方法に特徴がある。これは、教育経験の中から効果的な教育方法を習得した結果か、あるいは現場から離れて久しい結果かこの調査からは、明言することはできない。

3. 看護教育経験の有無による差異

看護教育経験を有する者は、被介護者の身体状況や医療的な行為に直接関る項目を重視する特徴がある。

4. 教員の年齢による差異

年齢による際立った特徴はみられないものの、40 代の教員は安楽と安寧の技法を重視していた。介護技術の中でいわゆる三大介護と呼ばれる技術を重視していない点は、注目すべきことである。

5. 1 回の授業時間による差異

60 分で授業を展開している場合は、身体の清潔の回数が多い特徴がある。身体の清潔は、その方法や部位が多岐にわたり準備、デモンストレーション、後片付けなど考慮するとやむ終えないことかも知れない事情を推測できる。

おわりに

研究初年度である本年度は、介護教員の資格、教育年数、看護教育の経験の有無が介護技術教授法に影響を与える要因の基礎資料を作成し、一部考察した。次年度以降は、更なる関係性を明らかにすると共に、厚生労働省の学習指針を踏まえ検討する所存である。